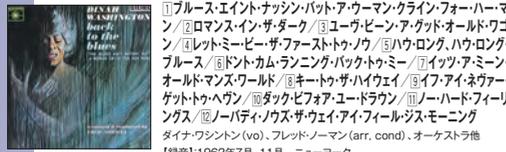


ソウルフルな歌唱で定評のあるダイナが自らの原点に帰帰した晩年の傑作。「ブルースの女王」の称号にふさわしい感動的な名唱がズバリと並ぶ。

WPCR-29147 国内初CD化 歌詞付 [ROULETTE]

ダイナ・ワシントン「バック・トゥ・ザ・ブルース」

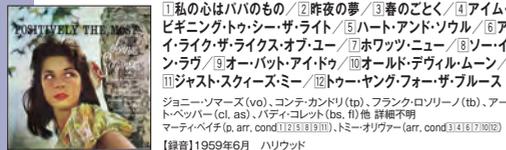


ゴスペルやブルースに囲まれて育ち、ジャズ・シンガー、R&Bシンガーとして大成したダイナ・ワシントンが晩年に吹き込んだブルース・アルバム。以前に彼女がエマーソンに吹き込んだ曲を含め、古典的なブルースの傑作ナンバーやアルバムのための新しいブルース曲を、ダイナは雄々たる風格とともに歌いこなしてゆく。9分近くにも及ぶ「ノー・バディ・ノ・ワズ・ザ・ウェイ」のしみじみとした味わいも、強く心に残る。

「ワン・ボーイ」「内気なジョニー」のヒットで知られるキュートなシンガーが、ペッパー参加のオーケストラと共演した人気盤。

WPCR-29149 歌詞付 [WARNER BROS.]

ジョニー・ソーマーズ「ボジティヴリー・ザ・モスト」

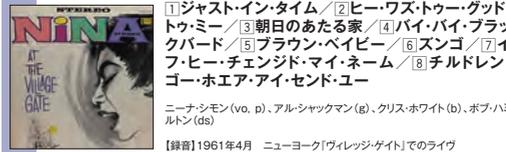


「ワン・ボーイ」「内気なジョニー」などのヒットを放って活躍した人気ポップ・シンガーのジョニー・ソーマーズ。そんな彼女がヒットを飛ばす直前に吹き込んだ初アルバムが、この「ボジティヴリー・ザ・モスト」である。初々しいソーマーズの歌唱のバック・アレンジを受け持つのはマーティ・ペイチとトミー・オリヴァー。ペイチのバンドにアート・ベッツが参加して発刺たるソロをとっていることから、コレクターには狂喜の1枚になっている。

聴衆を前にした時に最高の魅力を発揮するニーナが、小さなジャズ・クラブで繰り広げた感動のステージ。どの歌もどの演奏も、聴く者の心にじんわり染み入ってくる。

WPCR-29148 歌詞付 [COLPIX]

ニーナ・シモン・アット・ザ・ヴィレッジ・ゲイト

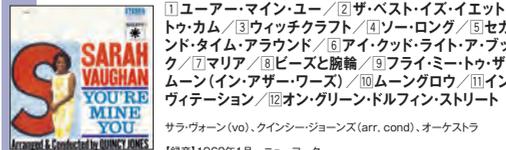


大きな人気と名声を確立したニーナ・シモンが、彼女のホーム・グラウンドだった「ヴィレッジ・ゲイト」で繰り広げた素晴らしいライブ・ステージ。個性的なシンガーとしてだけでなく、ユニークなピアニストとしての個性も充分に発揮してみせている。毅然たる表現を聴かせる(ジャスト・イン・タイム)や、もの哀しい(朝日のあたる家)。アフリカン・テイストの(ズンゴ)を含め、彼女のレパトリーの広さもよく表れている名盤。

聖なる声の持ち主サラが、名アレンジ、クインシーの指揮によるオーケストラをバックに、のびのびと歌ったルーレット時代を代表する名盤。

WPCR-29150 歌詞付 [ROULETTE]

サラ・ヴォーン&クインシー・ジョーンズ「ユア・メイン・ユー」



サラ・ヴォーンのバックをクインシー・ジョーンズのオーケストラが飾るといふ、ゴージャスな共演アルバムである。ジャジーな(ウィッチクラフト)や(アイ・クッド・ライト・ア・ブック)などのメロディーの自在な崩し方は、まさにサラ・ヴォーン流。(セカンド・タイム・アラウンド)(フライ・ミー・トゥ・ザ・ムーン)(イン・アザー・ワース)の(ライオン・キング)の(マリア)のようなポップ曲まで、見事な節回しで歌いこなしてゆく。

JAZZ MASTERS COLLECTION 1200

名門アトランティック、ワーナー・ブラザース・レーベル等に、新たに加わったルーレット、ルースト、ジュビリー、コロピックス等の名盤、初CD化のレア盤をSHM-CD仕様、特別価格でリリースするシリーズの第3弾&4弾。

第3弾 全25タイトル: 2016年10月26日発売

第4弾 全25タイトル: 2016年11月23日発売

24bit デジタルリマスタリング 完全限定盤 / SHM-CD仕様



特別価格 各¥1,200+税



TOP 10 OF JAZZ MASTERS COLLECTION 1200

対象: 第1弾~第2弾 (100タイトル)

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
|
ジャッキー・マクリン・クインテット
WPCR-29001 |
ソニー・スティット・プレイズ
「ニアネス・オブ・ユー」
WPCR-29003 |
バド・パウエル
「バド・パウエルの芸術」
WPCR-29051 |
ニュー・ジョニー・スミス・カルテット
WPCR-29025 |
| 5 | 6 | 7 | |
|
ボビー・ジャスパー・クインテット
WPCR-29014 |
リー・モーガン&カーティス・フラー
「マンデイナイト・アット・バードランド」
WPCR-29011 |
ジョー・ニューマン&ズート・シムズ
「ロッキング・ホーンズ」
WPCR-29027 | |
| 8 | 9 | 10 | |
|
メイナード・ファーガソン
「ア・メッセージ・フロム・ニューポート」
WPCR-29030 |
ビヴァリー・ケニー・シングス・フォー・ジョニー・スミス
WPCR-29048 |
サラ・ヴォーン
「ザ・ディヴァイン・ワン」
WPCR-29097 | |



SHM-CD 全てのCDプレーヤーで再生可能な高音質CD SHM-CD (Super High Material CD) とは… 通常のCDとは別種の液晶パネル用ポリカーボネート樹脂を使用することにより、音質の高音質性、耐擦傷性、耐熱性を向上させた高音質CDです。 ※この商品の高音質性はマスターに対する高音質再生の意図で、音質に関する詳細はパッケージ裏面より詳しくお読みください。 ※SHMおよびSHM-CDロゴは、ユニバーサルミュージック合同会社と株式会社JVCケンウッドの登録商標です。

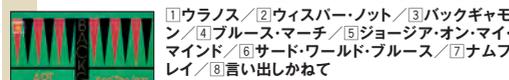
ジャズ・マスターズ・コレクション1200 特集サイト <http://wmg.jp/special/jazz1200/>



JAZZ MASTERS COLLECTION 1200 第3弾 (全25タイトル)

ル・レットに残された70年代JMの代表作。ベニー・ゴルフが書いた名曲の再演をはじめ、新旧のメッセンジャーズが一体となって熱気溢れる演奏を繰り広げる。

WPCR-29102 [ROULETTE] アート・ブレイキー&ザ・ジャズ・メッセンジャーズ『バックギャモン』



1 ウラノス / 2 ウィスパー・ノット / 3 バックギャモン / 4 フルース・マーチ / 5 ジョージア・オン・マイ・マインド / 6 サード・ワールド・ブルース / 7 ナムレイ / 8 言い出しかねて

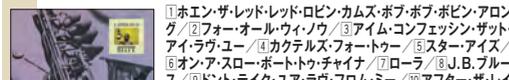
アート・ブレイキー (ds)、ビル・ハードマン (tp)、ラジ・カマラ (tr)、vo、レディ・ウィット・シュニッター (ts, vo)、アルバート・テイラー (tr)、鈴木良雄 (b)

【録音】1976年3月15、16日 ニューヨーク

30数年にもわたってジャズ界の第一線で活動を繰りひろげた「ジャズ・メッセンジャーズ」70年代の初めにメンバー移動の激しい時期があったものの、ふたたび往時の熱気とパワーを取り戻していったのが、このアルバム前後の頃からはなかっただろう。霸気あふれるアンサンブルをバックからアート・ブレイキーが爛り立ててゆくタイトル曲(バックギャモン)は、そんなメッセンジャーズの後継ぶりをよくとらえた一曲になっている。

おなじみ的人气サクソフ奏者がワン・ホーンで残した貴重盤。親しみやすいスタンダードを中心に充実したブレイを披露。LP未収録の別テイク2曲を追加。

WPCR-29104 [ROOST] ソニー・スティット『ア・リトル・ビット・オブ・スティット』



1 ホエン・ザ・レッド・レッド・ロビン・カムズ・ボブ・ボブ・ポピン・アロング / 2 フォー・オール・ウィ・ノウ / 3 アイム・コンフェッション・ザット・アイ・ラヴ・ユー / 4 カクテルズ・フォートゥー / 5 スター・アイズ / 6 オン・ア・スロー・ボート・トゥ・チャイナ / 7 ロラ / 8 J.B.ブルース / 9 ドント・テイク・ユア・ラヴ・フロム・ミー / 10 アフター・ザ・レイト・トイ・ショウ [オリジナルLP未収録曲] 11 アイム・コンフェッション・ザット・アイ・ラヴ・ユー (別テイク) / 12 ロラ (別テイク)

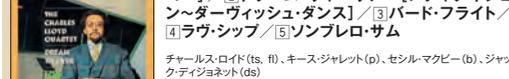
ソニー・スティット (as, ts, ts, ts, ts), ジミー・ジョンズ (p)、アーロン・ペル (b)、チャーリー・パーシブ (ds)

【録音】1959年4月10日 ニューヨーク

ルースト・レーベルに吹き込まれたソニー・スティットの演奏は、どれも一聴の価値をもっているものばかりである。59年の本アルバムは、ジミー・ジョンズのトリオをバックにしたワン・ホーン・アルバム。(フォー・オール・ウィ・ノウ)や(オン・ア・スロー・ボート・トゥ・チャイナ)のようなスタンダード曲を、バップ・ブレスを駆使してのびやかに歌いあげてゆく。どこかつろいだ雰囲気も感じさせる魅力的な一枚である。

キャノンボール・アダレイのグループから独立。60年代のフラー・ユニオン・ウェルメントで一世を風靡したロイドのアトランティック第1弾。名曲「紅葉」を含む「秋の情景」が圧巻。

WPCR-29106 [ATLANTIC] チャールス・ロイド・カルテット『ドリーム・ウィーヴァー』



1 秋の情景 [秋のプレリウド～紅葉～オートマ・エコー] / 2 ドリーム・ウィーヴァー [メディテーション / 4～ダーヴィッシュ・ジャンプス] / 3 バード・フライト / 4 ラヴ・ソング / 5) ヴェンズ / 6) サム

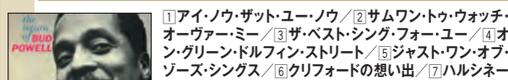
チャールス・ロイド (ts, fl)、キース・ジャレット (p)、セシル・マクレー (b)、ジャック・ケティン (ds)

【録音】1966年3月29日

60年代半ば、自身のカルテットを編成してアトランティックと契約を結んだチャールス・ロイドの第一弾。まだ20歳! だった無名のピアニスト、キース・ジャレットや若きジャック・ケティンらのブレイも含め、大胆な表現の盛り込まれたサウンドが、じつに新鮮である。「紅葉」をモチーフとした「秋の情景」、スビトゥリアルな(ラヴ・ソング)をはじめ、時代の寵児となってゆくロイド・カルテットの真髄が詰め込まれている傑作。

真の天才が放った枯淡の境地。パリでの生活を終えたパウエルが帰国後、ルーレットに残した貴重なドキュメント名盤。LP未収録の2曲を追加。

WPCR-29101 [ROULETTE] バド・パウエル『ザ・リターン・オブ・バド・パウエル』



1 アイノク・ザット・ユー・ノウ / 2 サム・ワント・ウ・ウォッチ・オーヴァー・ミー / 3 ザ・ベスト・シング・フォー・ユー / 4 オン・グリーン・ドールフィン・ストリート / 5 ジャスト・ワン・オブ・ソーズ・シングス / 6 クリフォードの想い出 / 7 ハルシネーションズ / 8 イフ・アイ・ラブ・ユー / 9 オリジナルLP未収録曲 / 10 アイ・ビバ・ミラージュ / 11 ニューヨークの秋

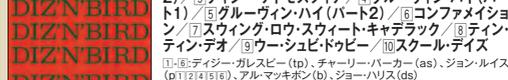
バド・パウエル (p)、ジョン・オー (b)、J.C.モゼーシ (ds)

【録音】1964年10月22日

5年間におよびヨーロッパ生活を経て64年、アメリカに戻ったバド・パウエル。そして彼にとって、これが正式なスタジオ・レコーディングとしては最後の作品になってしまった。こことつと語りかけるような(クリフォードの想い出)。往時のように天才的な閃きや華麗なテクニクは影をひそめてしまっているものの、そんな夢を追いかけるかのようには鍵盤をまさぐってゆくパウエルの演奏は、しみじみと心打たれるものがある。

前半にモダン・ジャズ=ビバップの立役者が共演したカーネギー・ホールでのライブ演奏。後半に異郷の地パリにおけるガレスピーバンドのライブ演奏をそれぞれ収録した、ルースト初期の重要アルバム。

WPCR-29103 [ROOST] ディジー・ガレスピー&チャーリー・パーカー『イン・コンサート』



1 チュニジアの夜 (パート1) / 2 チュニジアの夜 (パート2) / 3 ディジー・アトモスフィア / 4 グルヴ・イン・ハイ・ポジション / 5 グルヴ・イン・ハイ (パート2) / 6 コンファマイション / 7 スウィング・クワ・スウィート・キャデラック / 8 テン・ティン・テオ / 9 ウェン・ジュビ・ド・リベ / 10 スクル・デイズ

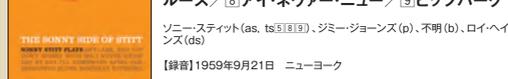
11: ディジー・ガレスピー (tp, vo, cga)、ビル・グラム (as, bs, vo)、エド・レイ (p)、ルー・ハックニー (b)、アル・ジョンズ (ds)、ジョー・キャロル (vo)

【録音】1953年2月9日 パリ [サル・ブレイヴ]でのライブ

パーカーとディジー・ガレスピーによる47年、カーネギー・ホールでのライブが6曲と、5年バリのディジーのステージが4曲。圧巻は47年のほうで、とくにパーカーがベストと呼べるソロを繰りひろげてみせる。ライブということもあって、パーカーに長いソロ・スペースが与えられているもの聴きもの。(チュニジアの夜)や急変調の(ディジー・アトモスフィア)をはじめ、いずれも超名曲と呼ぶにふさわしいものになっている。

スティットのルースト作品のうち、なぜか今回が初CD化となる超レア盤。名手ロイ・ヘインズの力強いドラミングを得て、メンバー全員が比較的好調なブレイに終始している。

WPCR-29105 [ROOST] ソニー・スティット『ソニー・スティット・オブ・スティット』



1 スカイラー / 2 ドント・ウォーリー・バット・ミー / 3 四月の思い出 / 4 ティ・バイ・ティ / 5 レッド・トップ / 6 ムー・レンジャー / 7 オールド・ファッショナル・ブルース / 8 アイ・ネヴァー・ニュー / 9 ヒツパング

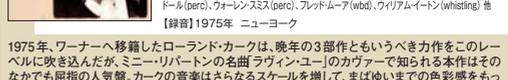
ソニー・スティット (as, ts, ts, ts, ts), ジミー・ジョンズ (p)、不明 (b)、ロイ・ヘインズ (ds)

【録音】1959年9月21日 ニューヨーク

ソニー・スティット、59年のワン・ホーン・アルバムで、曲によってアルト・サクソとテナー・サクソを自由に吹き分けている。ここでもスタンダード曲やブルースが演奏されていて、テンポをゆつたりとったところから、いつにかのびやかなブレイを耳にすることができる。バップ・ブレスの効力はそのままに、くつろいだ感じのブレイからリリックした良い雰囲気が生み出されてゆく。名手ロイ・ヘインズのサポートも心地よい。

「ラヴィン・ユー」の名で支持を得た晩年の傑作。人生の喜怒哀楽を捉えたヒューマニズム溢れる世界が横溢。

WPCR-29107 [WARNER BROS.] ローランド・カーク『天才ローランド・カークの復活』



1 ユー・リビオン・テマ / 2 スウィート・ジョージア・プラウン / 3 アイ・ビビ・シー・イン・グッド / 4 ラヴィン・ユー / 5 グッド・バイ・ボー・バイ・バイ / 6 セ・ウィル・ネヴァー・ビー・アナザー・ユー / 7 ジャイアント・ステップス

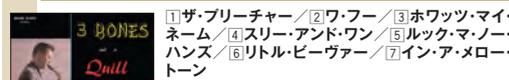
ローランド・カーク (fl, hc, strachanone, vo, back, vo, arr)、ロク・ベック (bs, oboe)、バド・パウエル (tp)、ビル・グラム (as, cello), ウィン・ジョーンズ (p)、アーサー・ベン・サリ (key)、ホルヘ・カバリエ (org)、ウイリアム・バドラー (g)、バスター・ウィリアムズ (b)、ミルトン・ビントン (b)、マリア・ピアノ (b)、チャーリー・パーシブ (ds)、ビル・カーク (ds)、ジェリー・グリアン (ds)、ヘイ・ネ・テック (perc)、ウォレン・スミス (perc)、フレッド・ムーア (wb), ウィリアム・メイソン (whistling) 他

【録音】1975年 ニューヨーク

1975年、ワナー・レコードに移籍したローランド・カークは、晩年の3部作ともいべき力作をこのレーベルに吹き込んだが、ミニ・リパートの名曲「ラヴィン・ユー」のレコーディングで知られる本作はそのなかでも屈指の人気盤。カークの演奏はさらなるスケールを増し、まばゆいほどの色彩感をもったサウンドを描き出した。哀愁をもつテーマを奏鳴したユー・リビオン・テマ)、コント・レインの名曲「ジャイアント・ステップス」まで、カークならではの強烈な個性で塗りこめてみせる。

フィル・ウッズとのコンビでも知られる白人アルト奏者が、個性派トロンボーン奏者3人と共演したモダン・ジャズの香り溢れる好作品。

WPCR-29108 [ROOST] ジーン・クイル『3ボーンズ・アンド・ア・クイル』



1 ザ・フリーチャー / 2 フー / 3 ホワツ・マイ・ネーム / 4 スリー・アット・ワン / 5 ルック・マ・ノー・ハンス / 6 リトル・ビーヴァー / 7 イン・ア・メロー・トーン

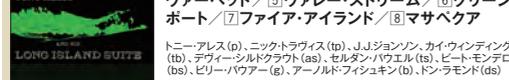
ジーン・クイル (as)、ジミー・クワグランド、フランクリン・ハ、ジム・ダール (tb)、ナット・ピアース (p)、(ts, ts, ts), ハンク・ジョンズ (b)、(p, ts, ts), ホワイ・ティムツェル (b)、チャーリー・パーシブ (ds)

【録音】1958年 ニューヨーク

パーカー派の白人アルト奏者として、知る人ぞ知るジーン・クイルがルーストにのこした貴重なリーダー・アルバム。それだけでなく、ジミー・クワグランドをはじめとする名トロンボーン奏者3名が加わっていて、温かく濃厚なハーモニーの響きをかき立てている。こきげんなく演奏した(ザ・フリーチャー)、リーダーのクイルのエモーショナルなブレイにももちろん、トロンボーンの名人も楽しめる、聴きどころの多いアルバムである。

50年代の知られざる才能が残した壮大でスウィングな組曲。通好みの名手が多数参加する永遠のコレクターズ・アイテム。

WPCR-29110 [ROOST] トニー・アレス『ロング・アイランド組曲』



1 レヴィット・タウン / 2 コロナ / 3 アキダクト / 4 リヴァーヘッド / 5 ヴァレー・ストリーム / 6 グリーン・ポート / 7 ファイア・アイランド / 8 マサチューセッツ

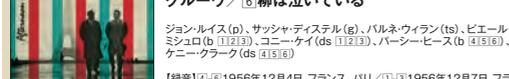
トニー・アレス (b)、ニコラ・ラウリス (tr)、J.J.ジョンズ (p)、アイウイン・デング (tb)、デヴィッド・ランドラット (as)、セルダ・パウエル (ts)、ヒート・モンテロ (bs)、ビル・パーカー (g)、アール・フィッシュキン (b)、ドン・ラモンド (ds)

【録音】1955年7月 ニューヨーク

ウディ・ハーマン楽団などでプレイしたことも知られるピアニストのトニー・アレスがのこした唯一のリーダー・アルバムが「ロング・アイランド組曲」。9人編成のバンドのために、トニー・アレスはニューヨーク州の「ロング・アイランド」をテーマにした曲を書いて組曲風にもあつめた。アレスの非凡なピアノ・ソロとともに、J.J.ジョンソンをはじめとする名手たちのスウィングな「ロ・リレー」を耳にすることができ。

ジョン・ルイスが1956年、パリの一流ミュージシャンと共演した名盤。ケニー・クラークとの再会や名手ディステルの繊細なギター、ロリンズに傾倒していた若きバルネも聴きどころ。

WPCR-29112 [ATLANTIC] ジョン・ルイスとサッシャ・ディステル『アフタヌーン・イン・パリ』



1 アイ・カヴァー・ザ・ウォーターフロント / 2 ディア・オールド・ストックホルム / 3 アフタヌーン・イン・パリ / 4 オール・ザ・シングス・ユア・アー / 5 バグス・グルーヴ / 6 柳は泣いてる

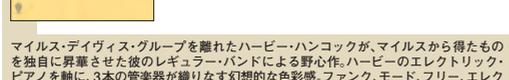
ジョン・ルイス (p)、サッシャ・ディステル (g)、バルネ・ウィラン (ts)、ピエール・ミシロ (b)、(ts, ts)、ケニー・クラーク (tr)、パーシー・ヒース (b)、(ts, ts)、ディステル (ds)

【録音】1956年12月4日 フランス、パリ / 1956年12月7日 フランス、パリ

MJQのリーダーとしても知られる美しいピアニストのジョン・ルイスが66年、パリへ赴いたときに地元のパレイヤーたちと共演した美しいアルバム。23歳だったギタリストのサッシャ・ディステル、19歳だったバルネ・ウィランを加えて、ルイスがヨーロッパへの憧れとロマをいっばいふりまいてみせている。タイトル曲(アフタヌーン・イン・パリ)や「ディア・オールド・ストックホルム」を筆頭に、典雅なルイスのピアノの魅力が最高に発揮されている1枚。

全員がスワリリ語名でクレジットされている。アルバム・タイトルはスワリリ語で「作業」の意。8分の15拍子の「オスティナト」をはじめ、シンセを使った雄鳥自在の音楽が展開される。この後、一世を風靡するヘッド・ハンターズ前夜の名盤。

WPCR-29114 [WARNER BROS.] ハービー・ハンコック『エムワンディシ』



1 オスティナト / 2 ユール・ノウ・ホーン・ユー・ゲット・ゼア / 3 ワンダリング・スピリット・ソング

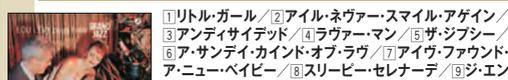
ハービー・ハンコック (el-p), エディ・ヘンダーソン (tp, fl), ジュリアン・パリスター (tb)、ベニー・モウレン (b-cl, a-fl)、ロン・モンテロ (bs)、(ts, ts), バスター・ウィリアムズ (g), ビリー・ハート (ds)、レオン・チンクラン (ds, perc)、ネセ・チヒ・トビ・スミス (cga), (ts, ts), timb) 他

【録音】1970年12月31日 サンフランシスコ

マイルス・デイヴィス・グループを離れたハービー・ハンコックが、マイルスから得たものを独自に昇華させた後、レニー・ハートにによる野心作。ハービーのエレキトック・ピアノを軸に、3本の管楽器が織りなす幻想的な音景。ファンク、モード、フリー、エレクトロニックと、時代の新鮮感を自在に取り入れながら冒険心あふれるサウンドを生み出してゆくハービーの姿に、いままお大きな感動をおぼえるアルバムである。

西海岸で活躍した白人バップ・ピアニストが、ジュビリーに残したゴージャスなピアノ・トリオ人気盤。シャンソンの名曲「パリの空の下」での哀愁溢れる解釈も味わい深い。

WPCR-29109 [JUBILEE] ルー・レヴィー『ブレイズ・ベイビー・グランド・ジャズ』



1 リトル・ガール / 2 アイム・ネヴァー・スマイル・アゲイン / 3 アン・ディ・サイザード / 4 ウォーマン / 5 ザ・ジブシー / 6 アイ・サン・デイ・カインド・オブ・ラヴ / 7 アイヴ・ファン・ド・ア・ニュー・ベイビー / 8 スリー・ビセ・サード / 9 ジェン・コム・ア・ラヴ・アフェア / 10 パリの空の下 / 11 コム・サ・コム・サ / 12 ユード・ト・ノウ・ホワット・ラヴ

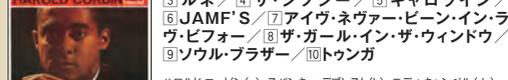
ルー・レヴィー (p)、マックス・ベネット (b)、ガス・ジョンソン (ds)

【録音】1958年 ロサンゼルス

バド・パウエルやアート・テイタムからの影響を感じさせながらも、小粋にスウィングするタッチを聴かせていたピアニストのルー・レヴィー。50年代に西海岸に拠点を移してからのルー・レヴィーはRCAなどにリーダー作を吹き込んでいて、これはほぼ同じ頃にジュビリーに録音された貴重な作品。おなじみのスタンダード・ナンバーを中心に作り、美しく料理してみせる。ピアノ・トリオの楽しさを気軽に味わうことのできる極上の一枚。

幻の黒人ピアニストが残した唯一のピアノ・トリオ・アルバム。アーマッド・ジャマルのスタイルを取り入れた、ソウルフルでファンキーな演奏が秀逸。

WPCR-29111 [ROULETTE] ハロルド・コービン『ソウル・ブラザー』



1 ソウル・シスター / 2 ドント・ブレイム・ミー / 3 ルネ / 4 ザ・ジブシー / 5 キャロライン / 6 JAMF'S / 7 ザ・ニュー・ネヴァー・ビーン・イン・ラヴ・ビフォー / 8 ザ・ガール・イン・ザ・ウインドウ / 9 ソウル・ブラザー / 10 トンガ

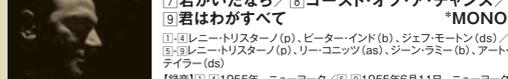
ハロルド・コービン (p)、スパンキー・デプレスト (b)、エディ・キャンベル (ds)

【録音】1961年6月 ニューヨーク

フィラデルフィアの実生で、ファンキーなタッチを聴かせるハロルド・コービンのプレイ、やはり同地帯の生みの子、ファンキーなポピー・テリメンズを思わせるものがある。これは63年、わずか29歳という若さで世を去ってしまったコービンのこの唯一のリーダー・アルバム。コービン作になるタイトル曲は、ローカル・レーベルからシングル・カットもされたヒット・ナンバー。他の曲もコービンが、ソウルフルに聴かされてゆく。

ビバップと対する白人中心のムーヴメント、クール・ジャズの創始者として知られるトリスターノの代表作。

WPCR-29113 [ATLANTIC] レニー・トリスターノ『鬼オットリスターノ』



1 ライン・アップ / 2 レイク・エム* / 3 ターキッシュ・マンボ* / 4 第32丁目* / 5 ジーズ・フーリッシュ・シングス / 6 ユー・ゴート・ウォー・ヘッド / 7 君がいなければ / 8 ゴースト・オブ・ア・チャンス / 9 君はわがすべて *MONO

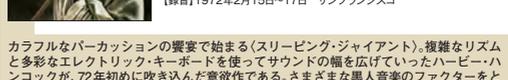
11:44 レニー・トリスターノ (p)、ビター・イン (b)、ジフ・モント (ds) / 11:53 レニー・トリスターノ (p)、リー・コッツ (as)、ジョン・ラミ (b)、アート・テイラー (ds)

【録音】1955年1955年 ニューヨーク / 1955年6月11日 ニューヨーク [サンキング・ソウル・グループ・コンファーマストラン]でのライブ

独自の理論とともに知的な構築をもつ音楽を創造していたレニー・トリスターノ。そんなトリスターノの究極の探求心。この1枚のアルバムに凝縮されている。テープ・スピードを変えた上自身のプレイをかかえた(ライン・アップ) (第32丁目)。ピアノの多音階音による(レイク・エム)と(ターキッシュ・マンボ)。徹底的にレニー・トリスターノのひたむきな姿が大きな感動を呼ぶ名盤。

通算10枚目。エレキトックを駆使した実験的なサウンドが人気を博したハンコックのエムワンディシ第2弾。エキサイティングでスリリングな演奏が繰り広げられていく。

WPCR-29115 [WARNER BROS.] ハービー・ハンコック『クロッシング』



1 スリーパー・ジャイアント / 2 クエーサー / 3 ウォーター・チャー

ハービー・ハンコック (p, el-p, perc, melotron), エディ・ヘンダーソン (tp, fl), ペリー, ジョアン・アブスター (b, tb), a-tb, perc), ベニー・モウレン (b-cl, a-fl, b-cl, perc), バスター・ウィリアムズ (g), b, b, perc), バット・リット・グリアン (synth), ビリー・ハート (ds, perc), ウィクター・バートナー (cga) 他

【録音】1972年2月16日~17日 サンフランシスコ

カラフルなバッキングの裏で始まる(スリーピング・ジャイアント)、複雑なリズムと多様なエレキトック・キーボードを使ってサウンドの幅を広げたいハービー・ハンコックが、72年初めて吹き込んだ傑作である。さまざまな個人音楽のフュージョンを取り入れながらも、それまで聴かれなかったベイシアンな響きに昇華させてゆくハービー・ハンコック。「ヘッド・ハンターズ」結成前の彼の音楽の、ひとつの完成形がここにある。

幻惑的な表題曲が印象的なアランティック最終作。繊細で暖かいフリーゲル・ホーンと、冷たく寂しげなピアノの対比が秀逸。

WPCR-29116 [ATLANTIC]

アート・ファーマー・カルテット『ブルースをそとと歌って』

- 1)ブルースをそとと歌って/2)アド・インフィニタム/3)プチ・ペル/4)ティアーズ/5)アイ・ウェイテッド・フォー・ユー/6)ワン・フォー・マッド

アート・ファーマー (flh)、ステイヴ・キューン (p)、ステイヴ・スワロウ (b)、ビートル・ロカ (ds)

【録音】1965年3月12日 ニューヨーク/1965年3月16日 ニューヨーク/1965年3月30日 ニューヨーク

ステイヴ・キューンをはじめとする新感覚派のトリオを従え、アート・ファーマーがフリーゲル・ホーンをもって抒情性をいかになく発揮してみせる。ブルース表現を知的な洗練へと高めた、カラ・ブレイの手になるタイトル曲。西インド諸島に伝わる民謡をアレンジした(プチ・ペル)に漂うほのかな哀感。冒険心あふれる(アド・インフィニタム)など、多くの聴きどころをもっているファーマーの傑作アルバムである。

ジョン・コルトレーンとの共演で名高い黒人男性歌手が、50年代後半にルーストに残した知られざる1枚。久しぶりの国内盤発売。

WPCR-29118 国内初CD化 歌詞付 [ROOST]

ジョニー・ハートマン『アイ・ソート・アバウト・ユー』

- 1)ママゼル/2)トウイーチ・ヒズ・オウン/3)サンディ/4)アローン/5)ロング・ア・ゴーン・アンド・ファア・アウェイ/6)アイ・シュッド・ケア/7)リトル・ガール・ブルー/8)パット・ビューティフル/9)君去りし後/10)心安まる頃/11)ハウ・ロング・ハズ・ディ・ベーン・ゴイイング・オン/12)アイ・ソート・アバウト・ユー

ジョニー・ハートマン (vo)、ルディ・レイラー (cond)、オーケストラ

【録音】1959年1月 ニューヨーク (推定)

ジョン・コルトレーンとの共演盤など大きな注目をあつたシンガーのジョニー・ハートマン。これはコルトレーンとの共演より少し前にルーストに吹き込んだアルバムで、深い興行をもつリントン・ヴォイスの魅力を活かすことができる。パラードを中心に歌うハートマンの温かい表情を、バックのオーケストラが美しく包み込んでゆく。ハートマンの中でも渋い作品だが、それだけにマニアにとっては垂涎の一枚になっている。

ディズニー映画『シンデレラ』の声を担当、可憐な雰囲気か魅力の女性歌手が残した唯一のアルバム。ヴォーカル・マニアの間では、ジャケ&内容ともに充実の人気盤としても有名な1枚。

WPCR-29120 歌詞付 [JUBILEE]

アイリッシュ・ウッズ『イツツ・レイト』

- 1)イツツ・ア・ブルー・ワールド/2)エヴリタイム/3)ホエ・ユ・ア・ラヴァー・ハズ・ゴーン/4)イフ・アイ・ラヴ・アゲイン/5)縁は異なるもの/6)エストレリータ/7)ホワイ・ワイルド・アイ・ヤング/8)イフ・ユ・ワー・マイン/9)アイム・オール・ド・ファッショニユア/10)ユア・プラーゼイ/11)アイ・リメンバー・ユー/12)イツツ・レイト

アイリッシュ・ウッズ (vo)、ビル・クルフン (arr. dir)

【録音】1956年 ニューヨーク (推定)

ディズニーのアニメーション映画で『シンデレラ』をつとめたことでも知られる女優、歌手のアイリッシュ・ウッズ。そんな彼女が吹き込んだ唯一のアルバムが『エヴリ・イツツ・レイト』である。ソフトな美しい声と確かな表現力と織りなせるスタンダード・ナンバーの数々。メキシコの曲(エストレリータ)をハミングで歌ってゆくあたりも、彼女の持ち味といえるだろう。ヴォーカル・マニアにはコレクターズ・アイテムの一枚。

ゴスペル、ブルース、ソウルの伝統を継承する大歌手ニーナの代表作。オスカー・ブラウン・ジュニアの表題曲をはじめ、モダン・ジャズの名曲『ワーク・ソング』の力強い歌唱も迫力満点。

WPCR-29122 歌詞付 [COLPIX]

ニーナ・シモン『禁断の果実』

- 1)ラクス・アンド・オールド・アイアン/2)ノー・グッド・マン/3)ジーン・ハウス・ブルース/4)アイ・ルック・ク・アラウンド/5)アイ・ラヴ・トゥー/6)ワーク・ソング/7)ホエ・ア・キャン・アイ・ゴウ・ワズ・アバウト・ユー/8)ジャスト・セイ・アイ・ラヴ・ヒム/9)メンフィス・イン・ジョーン/10)禁断の果実

ニーナ・シモン (vo. p)、アル・シャックマン (g)、クリス・ホワイト (b)、ホビー・ハミルトン (ds)

【録音】1961年 ニューヨーク

さまざまなナンバーをレパトリーにもつニーナ・シモンであるが、まずオスカー・ブラウン・ジュニアの作品が3曲歌われているのが注目される。タイトル曲(禁断の果実)と(ラクス・アンド・オールド・アイアン)、そして有名な(ワーク・ソング)、どの曲も、力強いエモーショナルな表現を聴かせるとニーナが素晴らしい。イタリアン・ソング(ジャスト・セイ・アイ・ラヴ・ヒム)に漂う、ほのかな哀感も最高だ。

多くの同業者からいまでも尊敬を集める白人ギタリストが、曲ごとに各メンバーのソロをフィーチャーしたルースト初期の名作。

WPCR-29117 国内初CD化 [ROOST]

ザ・ジョニー・スミス・カルテット

- 1)ジャンゴ/2)ウェイト・ティル・ユー・シー・ハー/3)0500 -ブルース/4)モア・ペース/5)ウン・ボ・コロコ/6)イー・リヴィング/7)オールド・ガール/8)リトル・ガール・ブルー/9)タイアード・ブラッド/10)スプリング・イ・ス・ヒア

ジョニー・スミス (g)、ボブ・パンコースト (p)、ジョー・ジール・マニ (b)、マウジー・アレキサンダー (ds)

【録音】1955年10月22日 ニューヨーク (推定)

ルースト・レーベルの看板アーティストだったジョニー・スミス。これはピアノを加えたオーソドックスなカルテット編成による55年のアルバムで、絶妙のコード・ワークを生かしたスミスのロマンティックな持味がよく出た一枚になっている。おなじみのスタンダード曲とともに、ジョン・ルース (のジャンク)なども美しく演奏。さらにパワエルの(ウン・ボ・コロコ)をジャジーに演じているのも興味深いところである。

恋に破れた女心をせつなく歌う実力派黒人女性歌手の初リーダー作。ハンク・ジョーンズ、ケニー・クラークなど一流ジャズメンで固めた伴奏もパーフェクト。

WPCR-29119 歌詞付 [JUBILEE]

エセル・エニス『ララバイズ・フォー・ルーズー』

- 1)ラヴ・フォー・セール/2)ドリーマー・ドリーマー/3)ブルー・プレリュード/4)オフ・ショア/5)カジュアリー/6)ヘイ・ジャック/7)ララバイ・フォー・ルーズー/8)セイ・イット・エイント・ソー・ジョー/9)ユード・ベター・ゴ・ナウ/10)ブルー・ウィロー/11)ボン・ヴォヤージュ

エセル・エニス (vo)、ハンク・ジョーンズ (p)、エディ・ビックス (g)、アービー・ベイカー (b)、ケニー・クラーク (ds)

【録音】1955年末 ニューヨーク

ナチュラルな表現を聴かせて、とても良い気分にしてくれるエセル・エニスのデビュー・アルバムである。スローなバラードが中心で、いずれも哀しい恋の歌ばかり。そんなナンバーをあげて、豊かな情感とともに、ずっと寄り添うように優しくも愛情で歌ってゆく。まだ23歳の若さだったとはいえ、充分に大人の表現を聴かせるエセル・エニス。このあかやキャピトルやRCAへとメジャーに進出する彼女の、心温まる一枚である。

1960年のニューポート・ジャズ祭で繰り広げた熱狂的なステージ。伝統的なブルース、フォーク・ソングからオリジナル、コール・ポーターの名曲まで、切なく激しく、そして格調高い、二ナナの歌の世界が展開されている。

WPCR-29121 歌詞付 [COLPIX]

ニーナ・シモン・アクト・ニューボート

- 1)トラブル・イン・マインド/2)ボーギー/3)リトル・レイザ・ジェーン/4)ユード・ビー・ソー・ナイス・トゥ・カム・ホーム・トゥ・ウ/5)フロム・U/6)ニーナズ・ブルース/7)イン・ジ・ヴィンディング・バイ・ザ・マン・ライト

ニーナ・シモン (vo. p)、アル・シャックマン (g)、クリス・ホワイト (b)、ホビー・ハミルトン (ds)

【録音】1960年6月30日 【ニューポート・ジャズ・フェスティバル】でのライブ

ニーナ・シモンにとって初のニューボート・ジャズ・フェスティバル出演になった60年の感動的なステージ。ソウルの名曲(トラブル・イン・マインド)、タンバリンを叩きながらリズムミックスに歌いあげ(リトル・レイザ・ジェーン)、ユークスなピアノの弾き語りで聴かせる(ユード・ビー・ソー・ナイス・トゥ・カム・ホーム・トゥ・ウ)。ジャズ・シンガーというだけでなく、フォーク的な味わいをもつニーナの個性をたっぷり味わうことのできる名作である。

ビリー・ホリデイにも認められ、絶大な人気と実力を誇ったブルースの女王が、ストリングスとコーラスを含む豪華な伴奏でしっとり歌った極上のラヴ・バラード集。

WPCR-29123 国内初CD化 歌詞付 [ROULETTE]

ダイナ・ワシントン『イン・ラヴ』

- 1)フライ・ミート・ウ・ザ・ムーン/2)ユア・ア・スイート・ハート/3)アウ・ラヴ/4)ラヴ・イ・ス・ザ・スイート・シング/5)アイ・ルック・ス・マイ・アイズ/6)アイ・デント・ノウ・アバウト・ユー/7)イフ・イツツ・ザ・ラスト・シング・アイ・ドゥ/8)ドク・ナッジン・ティル・ユー・ヒア・フロム・ミー/9)マイ・デイヴ・オーション/10)ザッツ・マイ・ゼイア/11)ワズ・イット・ライク・ザット/12)ミー・ア・ラヴ・ザット・アイ・ラヴ

ダイナ・ワシントン (vo)、ドン・コスタ (arr. cond)、オーケストラ&ストリングス

【録音】1962年 ニューヨーク

ベテラン・シンガー・ダイナ・ワシントンが歌う素直な恋のナンバーの数々。ソウルのスバイスを加えながら(フライ・ミート・ウ・ザ・ムーン)や(ザッツ・マイ・ゼイア)のようなおっぱ・チューを歌うダイナの風格をもった表現は、また格別の魅力がある。チャイコフスキーのロマンティックを基にした(アウ・ラヴ)など、ロマンティックなダイナの歌声を優雅なドン・コスタのオーケストラが、いっそうゴージャスに包みこんでゆく。

ベニー・カーターの編曲・指揮によるオーケストラとの共演で、サラの魅力も倍增。ヒット曲『アイ・ビリーヴ・イン・ユー』をはじめ、おなじみのスタンダードをたっぷり歌う。

WPCR-29124 国内初CD化 歌詞付 [ROULETTE]

サラ・ヴォーン『ジ・イクスプロージヴ・ザイド』

- 1)アイ・ビリーヴ・イン・ユー/2)ハニー・サックル・ローズ/3)ガンジス川の月光/4)ザ・レディーズ・イン・ラヴ・ウィズ・ユー/5)君去りし後/6)ガーデニング・ザ・レイン/7)輝けるは愛のみ/8)トロリー・ソング/9)アイム・ゴ・ラヴィン・ディ・ライ・ア・イ・ダイ/10)恋に恋して/11)グレイヴ・アンド/12)ノー・バディ・エールズ・パット・ミー

サラ・ヴォーン (vo)、ベニー・カーター (arr. cond)他

【録音】1962年8月、9月 ロサンゼルス

タイトルどおりにアップ・テン・ボに傑作で、サラ・ヴォーンの燃えるように鮮やかな歌唱が楽しめる。ルーlett時代の大量傑作アルバムである。ジャジーな魅力を発散してゆくベニー・カーターのオーケストラを向こうに回して、いやが上にもダイナミックな盛り上がりを見せるサラが羨しい。いきなりキヤットから始まる(君去りし後)、超アップ・テンボの(トロリー・ソング)、どれも胸のすくようなトラックばかりである。

2016年11月23日発売

JAZZ MASTERS COLLECTION 1200 第4弾 (全25タイトル)

パーカッションを加えた、ラテンという切り口でジャズの楽しさを打ち出すことに成功したソートの代表作。サド・ジョーンズやチック・コリアの参加も得て全員が印象的なソロを聴かせる。

WPCR-29127 [ROOST]

ソニー・ステイット〜チック・コリア『ステイット・ゴーズ・ラテン』

- 1)アー・ユード・リスニング/2)アミーゴス/3)マイ・リトル・レッド・スエード・シューズ/4)リトモ/5)アイ・トルド・ユー・ソー/6)チック/7)セニョール・ジョーンズ/8)結葉

ソニー・ステイット (as. ts [17]), サド・ジョーンズ (tp)、チック・コリア (p)、ラリー・ケルズ (b)、ウーリー・ホボ (ds)、ジョー・バスター・ワルデス (cga. bg), オズワルド・チアマール・マルチネス (cowbell, maracas, jawbone)

【録音】1963年11月6日 ニューヨーク

華やかなラテン・パーカッションを加えて吹き込まれた、楽しいソニー・ステイットのアルバム。全8曲中6曲までがステイットのオリジナルで占められていて、ステイットは彼のソートを崩すことなく、リリクスとしてバップ・フィリックスを押し出してみせている。あくまでもソニー・ステイット流のラテン・ジャズ。まだ名曲だった頃のチック・コリアが参加して、リズムミックスを聴かせているのも興味深いところである。

北欧ジャズ先遣団の印象を、思いのままに綴ったファーマーの詩情溢れる名盤。ぬくもりに満ちたフリーゲル・ホーンの響きに癒される至福の世界。

WPCR-29129 [ATLANTIC]

アート・ファーマー・カルテット『フィヤリング・ジム・ホール』『スウェーデンに愛をこめて』

- 1)ウォズ・イット・ユー?/2)ゼイ・ソールド・ゼ・ア・ソート・エクス・テッド/3)リラック・タム・ケルム/4)アンド・リッスン・ヤング・ドロー/5)美しき水晶/6)真夏の歌

アート・ファーマー (flh)、ジム・ホール (g)、ステイヴ・スワロウ (b)、ビートル・ロカ (ds)

【録音】1964年4月28日、30日

スウェーデンに古くから伝えられてきた美しいトラディショナル・フォークの数々。64年に北欧を訪れたアート・ファーマーは、そんなメロディに心惹かれてストックホルムのスタジオに入り、これらの演奏を吹き込んだ。怒りを含んだ北欧のメロディや、ファーマーが奏するフリーゲル・ホーンを中心に込められた響きが見事にブレンドして、どこまでもロマンが広がってゆく。ファーマーのカルテットによる最高傑作盤。

ジャズ・ファンに永遠の歌姫がルーストに残した三部作の最後を飾る「超」人気盤。カント・ベイシー楽団のビッグ・アップ・メンバーで構成されたコンボをバックに、小粋&凛然と歌う。

WPCR-29125 歌詞付 [ROOST]

ビヴァリー・ケニー・シングス・ウィズ・ザ・ベイシー・アイツ

- 1)ノー・バディ・エールズ・パット・ミー/2)ザ・モア・アイ・シー・ユー/3)オールド・バタ・ミル・スカイ/4)アイ・ネヴァー・ハズ・シンズ・ブルー/5)ア・ファイン・ロマンス/6)ア・ア・ア・ホゥット・イン・ザ・セイ/7)メイ・カム・ヒア/8)ザ・チャーム・オブ・ユー/9)アズ・ト・ザ・ラヴ・リヴァー・デッド/10)メジャード・トゥズ/11)マイ・カインド・オブ・ラブ/12)キント・ゲット・アウト・オブ・ジ・ムード

ビヴァリー・ケニー (vo)、ジョー・ニューマン (tp)、フランク・ウェズ (ts, fl)、ジミー・ジョーンズ (p, arr)、フレディ・グリーン (g)、エディ・ジョーンズ (b)、ジョー・ジョーンズ (ds)

【録音】1956年 ニューヨーク

ソフトでありながら充分にジャジーな表現を聴かせるタイトルビヴァリー・ケニー。これはルーストからリリースされた彼女の3枚目のアルバムで、タイトルどおりカント・ベイシー楽団の名手たちが集まって、ごきげんなサポートをおこなって見せている。アレンジはピアニストのジミー・ニューマン。スウィング系ナンバーとバラードを交互に並べて歌うビヴァリー・ケニー。種々曲にも、彼女の趣味の良さがそのまま表れている。

ウィントン・マルサリスが登場する直前の70年代後半、ルーlettに残された知られざるハード・バップ名盤。ウォルター・デイヴィスJr.を筆頭に、ホビー・ワトソンやワレリー・ボノハレバが活躍。

WPCR-29126 [ROULETTE]

アート・ブレイキー&ジャズ・メッセンジャーズ『ジブシー・フォーク・ティルズ』

- 1)ジョディ/2)キャミ/3)ミワコ/4)ジブシー・フォーク・ティルズ/5)タイム・ウィル・テル/6)ロニーズ・ア・ダイナマイト・レディ/7)ホークマン/8)マリパ

アート・ブレイキー (ds)、ワレリー・ボノハレバ (tp)、ホビー・ワトソン (as)、デイヴィッド・シユニタ (ts)、ウォルター・デイヴィスJr. (p)、デニー・アーウィン (b)

【録音】1977年2月14日、17日、28日、3月1日 ニューヨーク

アルト・サクスを吹くホビー・ワトソンを音楽監督に迎えて完全復活をげたジャズ・メッセンジャーズ。ワレリー・ボノハレバとデイヴィッド・シユニタを加えた3管編成による77年のホットなアルバムである。タイトル曲はピアニスト、ウォルター・デイヴィスJr.のオリジナル、やはりデイヴィスが書いた名曲(ジョディ)、ファンキーな(ロニーズ・ア・ダイナマイト・レディ)とともに、ジャズの王道をゆく響きが炸裂する。

スウィング・スタイルで知られるトランペットの名手が軽妙な好ブレイを披露した滋味溢れる名盤。名聲貫人トニー・フランナンの参加とその相棒エルウィン・ジョーンズの参加も魅力。

WPCR-29128 国内初CD化 [ROULETTE]

ハリー『“スウィーツ”エディン・クインテット』

- 1)ウィッチャラフト/2)パレン・スカイズ/3)コン・フェッジン・ザット・アイ・ラヴ・ユー/4)浮気はやめた/5)キャン・デッド・スイート/6)誰も奪えぬこの恋/7)二人でお茶を/8)ノー・グレイター・ラヴ/9)トウ・エンティ・フォー・ユー/10)イージー・リミメンバー/11)スウィート・ケイクス/12)エジン・エル・アイズ

ハリー・スウィーツ・エディン (tp)、ジミー・フォレト (ts)、トニー・フランナン (p)、トニー・ボナー (b)、エルウィン・ジョーンズ (ds)

【録音】1960年2月12日 ニューヨーク

“スウィーツ”のニックネームで親しまれている名トランペッターのハリー・エディン。そんなエディンのソウスイキで流麗なブレイの魅力やリズムを味わうことのできる一枚である。ストリートとユートロを巧みに使い分けて、心温まる雰囲気を作り出している。どこまでも軽やかなエディンのおかげで、トニー・フランナン、エルウィン・ジョーンズというモダン派のリズム陣が、ごきげんなサポートをおこなって見せている。

サッチ・モとの共演で知られるトロンボーン界の大御所が、自己のグループで快活な演奏を繰り広げたトラッド・ジャズ名盤。「セント・ジェームス病院」「聖者の行進」などビディオン・ジャズの曲を味わい深演奏。聴く者の心をそとと温める。

WPCR-29130 国内初CD化 [ROULETTE]

ジャック・ティエーガーデン・アット・ザ・ラウンドテーブル

- 1)サウス・ランパード・ストリート・バラード/2)セント・ジェームス病院/3)ビッグ・イズ・フロム・ウエノカ/4)ホエン/5)セントルイス・ブルース/6)ハニー・サックル・ローズ/7)スターダスト/8)聖者の行進

ジャック・ティエーガーデン (tb, vo [2]), ドン・ゴードリ (tp, vo [8]), ヘンリー・クエスタ (cl), ドン・ユース (p), スタン・ハリス (b), ロニー・グレア (ds)

【録音】1959年7月1日 ニューヨーク(ラウンドテーブルクラブ)でのライブ

ルイ・アームストロングのオールスターズでも活躍したトロンボーン界の大御所のジャック・ティエーガーデン。これはキャピトルとの契約が終了したティエーガーデンによって、59年にルーlettに吹き込まれた作品である。ニューヨークのナイト・クラブ「ラウンドテーブル」で繰りひろげられたハッピー・ニュー・ディ・セッション(セント・ジェームス病院)では渋いヴォーカルも聴かせるなど、芸達者なところを見せている。

クラウド・ゾーンビルやウディ・ハーマンをはじめ、スーパーサクセスでも活躍した名サクセス奏者が揃ったビッグ・バンド名盤。50年代西海岸ジャズのエッセンスが凝縮したサウンドが秀逸。

WPCR-29131 **国内初CD化** **[JUBILEE]**

メッド・フロリー『ジャズ・ウェイヴ』

①ジャズ・ウェイヴ ②デイヴィー・ジョーンズ ③アン・オケイジョナル・マン ④波止場にたたずみ ⑤絶体絶命 ⑥サムワンス・ロッキング・マイ・ドリーム・ポート ⑦オーシャン・モーション ⑧ラブ・チャー ⑨中国行きのスロウ・ポート ⑩ヨナと鱈 ⑪シーチェイス

メッド・フロリー (ts, as), チャーリー・ケネディ, リッチー・ムニョカ (sax), ビル・ホルマン (ts, tb), リー・カッツマン, アル・ボーン・ス, レイ・リズカリ, コン・テカドリ (tp), ルネ・ウツァリ (tb), デイヴ・ウルズ (tb, b, tb), ラス・ア・リンズ (p), レッド・ケリー・バダクター (g), メル・ルイス (ds)

【録音】1957年5月13日、6月3日 ロサンゼルス

“スーパーサクセス”なども活躍した西海岸のサクセス奏者、メッド・フロリー。これは56年にフロリーが編成したリハーサル・バンドによってジュビリーに吹き込まれたもので、コンテ・カドリーやビル・ホルマン、メル・ルイスをはじめとする西海岸のトップ・プレイヤーたちが参加、ごきげんなビッグ・バンド・サウンドを楽しむことができる。メッド・フロリーの熱いミュージシャンシップが伝わってくる貴重な一枚。

ビ・バップからクラシックまで自由自在に弾きこなすピアノの魔術師、ローランド・ハナの魅力を満喫できる名盤。ペン・タッカーの強靱なラインも傾聴。美人ジャケットも人気の秘密。

WPCR-29133 **[ATCO]**

ローランド・ハナ『イーゼット・ウ・ラヴ』

①自由が一番 ②ネクスト・タイム・ユー・シー・ミー ③フロム・ジ・デイ・オン ④ライク・サム・ワン・ラヴ ⑤イエスタデイ ⑥ファルック・セロニアス ⑦イット・ネヴァー・エンター・マイ・マインド ⑧イーゼット・ウ・ラヴ ⑨チュニジアの夜

ローランド・ハナ (p), ペン・タッカー (b), ロイ・バンス (ds)

【録音】1959年9月25日

わが国でも高い人気をもっていたピアニスト、ローランド・ハナによる初期のピアノ・トリオ作品。アトラティック協奏のオート・コレレに吹き込まれたもので、コール・ポーター作になるタイトル曲をはじめ、おなじみのスタンダード・ナンバーを中心にピアニスティックなタッチを聴かせている。くつろいだ雰囲気の中にも、確かな手ごたえの感じられる演奏。ピアノ・トリオ・ファン的心を必ずや満足させてくれる名盤である。

バワフルなタッチとダイナミックなスタイルで知られる黒人の女流ピアニストが、50年代半ばにジュビリーに残したピアノ・トリオの人気盤。

WPCR-29135 **[JUBILEE]**

ドロシードネガン『セブテン・ソング』

①捧くは愛のみ ②セブテン・ソング ③アップ・ア・レイジー・リヴァー ④ハピネス・イズ・ア・シン・グ・コールド・ジョー ⑤セントルイス・ブルース ⑥ラヴ・フォー・セル ⑦テンダー〜星影のステラ ⑧バードランドの守り唄 ⑨ダンシング・オン・ザ・シーリング ⑩アイ・ゲット・ア・キック・アウト・オブ・ユー

ドロシードネガン (p) 他

【録音】1955年 ニューヨーク (推定)

素晴らしいピアノ・テクニクの持ち主であるだけでなく、エンターテイナーとしても個性を發揮していた女性ピアニストのドロシードネガン。生涯に10数枚のアルバムもおぶろーダー作をこのたドネガンの初期の代表作である。ラマンゴフのピアノ協奏曲のメロディをまじえてダイナミックに盛り上げる(セブテン・ソング)、ブギウギ風のセントルイス・ブルースをはじめ、ドネガンの多様な個性を味わうことができる作品。

グレン・ミラーやベニー・グッドマンとの共演で知られる名ピアニストが、管楽器を加えた小粋なコンボでモダン〜スウィング路線の演奏を披露した、ジュビリー初期の隠れ名盤。

WPCR-29137 **国内初CD化** **[JUBILEE]**

ルー・スタイン『8フォー・キックス・4フォー・ラフス』

①アイ・シュッド・ケア ②ザ・ベンデラム ③嘘は罪 ④ザット・オールド・フーリン・グ ⑤ウェイリン・ザ・ブルース ⑥ユード・ビー・サブライズド ⑦ドント・ウォーリー・アバウト・ミー ⑧ルーのブルース ⑨ザッツ・ア・プレント ⑩ホエーン・ユアラヴァー・ハズ・ゴーン ⑪ザ・スカル ⑫ロイヤル・ガーデン・ブルース

ルー・スタイン (p), ビリー・バスター・フィールド (tp), ビー・ナッツ・ハッコ (cl), ミルト・エイターズ (as) ③④⑤⑥⑦⑧ トニー・モルガ (g), アーロン・ベル (b), クリア・リヴァー (ds)

【録音】1954年 ニューヨーク

グレン・ミラーやベニー・グッドマンともに加わった、スウィングで趣味の良いタッチを聴かせてくれたピアニストのルー・スタイン。そんなルー・スタインによってジュビリーに吹き込まれた、とても珍しい一枚が8フォー・キックス・4フォー・ラフスである。オケテッド編成で、ビリー・バスター・フィールドやビー・ナッツ・ハッコなども参加、トランドなスタイルとモダンなアレンジがミックスされて、心地よい響きが生み出されている。

ミンガス・バンド出身の個性派サクセス奏者が、エヴァンス系の知性派ピアニストと組んだセカンド・アルバム。全曲、斬新な楽想のオリジナルで構成された文字通りの意欲作。

WPCR-29132 **[ROULETTE]**

ジョン・ハンディ『ノー・コースト・ジャズ』

①トウ・ランディ ②ティルス・オブ・パラダイス ③プーズ・アップ・アンド・ダウンズ ④ハイ・ナ・コースト ⑤プリティ・サイド・アヴェニュー ⑥ノー・コースト

ジョン・ハンディ (as, ts), トンド・フリードマン (p), ヒルリー (b), レックス・ハンブリス (ds)

【録音】1960年9月 ニューヨーク

イースト・コースト派でもウエスト・コースト派でもないという意味から名付けられた「ノー・コースト・ジャズ」。そんなジョン・ハンディのユニークな個性を味わうことのできる代表作の一枚である。チャールズ・ミンガスのバンドに参加したあと、独立したあと吹き込んだ作品で、全6曲がハンディのオリジナル、抒情的なナンバーからアレックツァン曲まで、新しい表現を指向していた彼の持ち味がよく発揮されたものになっている。

洗練されたタッチで知られる作曲家&ピアニストがリナ・ホーンとリカルド・モンタルパン主演のミュージカルの音楽に挑戦。カリフォルニアリズムやウォーク&コーラスとの共演で新鮮な魅力が横溢したジャズ・ピアノ作品。

WPCR-29134 **国内初CD化** **[JUBILEE]** **歌詞調** **[JUBILEE]**

サイ・コールマン『ジャマイカ』

①今日中に終わるとは思えない ②ザヴァナ ③モンキー・イン・ザ・マコー ④ナボレオン ⑤ジョー、あせらないで ⑥一緒に歩けば ⑦リトル・ビスケツ ⑧コナツツ・スウィート ⑨ボタンを押して ⑩ホワット・グッド・ダズ・イット・ウ

サイ・コールマン (p, vo) ①④⑤⑦⑧⑨, ロモ・ロバンク (tr), リー・カール・ブレイス, ダン・リズ・キーター・ベス (g), アーロン・ベル (b), レイ・モスカ, オシー・ジョン (ds), コーラス

【録音】1957年 ニューヨーク

ミュージカルやTV ショウなどの作曲家として、また趣味の良いジャズ・ピアニストとして活躍したサイ・コールマン。そんなサイ・コールマンが57年のブロードウェイ・ミュージカル「ジャマイカ」のナンバーを歌い、演奏する。ハロルド・アーレトが書いた音楽は、随所にかりアソの味を加えたハッピーなもの。コーラスを従え、フルートやギターを加えたアレンジで楽しく聴かせている。ミュージカルのジャズ版として貴重な一枚。

かつてお茶の間で人気を集めた私立探偵テレビ・シリーズのテーマ音楽を、ジャジーなピアノ・トリオとゴージャスなオーケストラの共演で楽しく聴かせるオルテガの人気作。

WPCR-29136 **国内初CD化** **[JUBILEE]**

フランキー・オルテガ&サイ・オリヴァー『サンセット77』

①サンセット77 ②クッキン・フォー・クーキー ③スベンサー・ステイクス・アウト ④ホワット・ブレイヴ・ト・アイズ ⑤アフター・サンセット ⑥サンセット・ストリップ ⑦7ステップのブルース ⑧レディ・イン・ディストレス ⑨ダイニング・アット・ディノス ⑩フリー・ウェイ・マンボ

フランキー・オルテガト&サイ・オリヴァー・オーケストラ他

【録音】1959年3月 ニューヨーク

ピアノ・トリオを率いるとともに、TVドラマの世界でも活躍したフランキー・オルテガが、一世を風靡した人気テレビ・シリーズ「サンセット77」のテーマをドラマチックに料理してみせる。名アレンジャー、サイ・オリヴァーのオケ・トラックに、ラウンジ風のタッチもまじえながら乗りの良いプレイを聴かせるフランキー・オルテガ。他にオルテガ自身やオリヴァーがドラマにちなんで書いたナンバーなどが、楽しく演奏されてゆく。

天才アート・テイタムの再来と言われ、圧倒的なテクニックを誇った鬼オフィニアスの初期代表作。全盛期のバド・ワエルに迫る衝撃的なプレイは、いま聴いても新鮮。

WPCR-29138 **[ATLANTIC]**

フィニアス・ニューボーンJr.『ヒア・イズ・フィニアス』

①パーバドス ②君はわがすべて ③モア・アイ・シン・ユー ④セイア ⑤パーホウド ⑥ニュー・ポート・ブルース ⑦アイン・ビギニング・トゥ・シー・ザ・ライト ⑧アフタヌーン・イン・パリ

フィニアス・ニューボーンJr. (p), オスカー・ベテフ・ハッド (b), ケニー・クラーク (ds), カル・フィン・ニューボーン (g)

【録音】1956年5月3日、4日

驚異的なピアノ・テクニクの持ち主だったフィニアス・ニューボーンJr.、そんなフィニアスが24歳の時に吹き込んだこのピアノ・トリオ・アルバムでは、彼のピアニスティックな個性が縦横に発揮されている。右手だけだけでなく、左手の機能もフルに生かして、素晴らしい演奏を目撃したいまでのスピードで弾ききってゆくフィニアス。“アート・テイタムの再来”と目されていた頃のフィニアス・ニューボーンJr.による、胸のすくような快演集である。

日本でも高い人気を誇ったモダン・ジャズの名ピアニストが、スイスの伝統あるジャズ・フェスティバルで繰りひろげた伝説のソロ大名盤。

WPCR-29139 **[ATLANTIC]**

レイ・ブライアント『アローン・アット・モントルー』

①ガット・トラヴェル・オン ②a.ブルース#3 b.柳よないおくれ ③クバノ・チャント ④ロックン・チェア ⑤アフター・アワーズ ⑥スロー・フレイト ⑦グリーン・スリーヴス ⑧リトル・スージー ⑨別れのときまで ⑩ブルース#2 ⑪“夢の夢”プギー

レイ・ブライアント (p)

【録音】1972年6月23日 スイス「モントルー・ジャズ祭」でのライブ

ブルージーなタッチが魅力のピアニスト、レイ・ブライアントが72年、モントルー・ジャズ・フェスティバルのステージで繰りひろげたソロ・ピアノ演奏。予定されていたオスカー・ピターソンが出演できなくなった為に、急遽ピッチ・ヒッターで起用されたブライアントの演奏は、フェスティバルを通じてのハイライトになり、以後のブライアント再評価のきっかけとなった。そんな“伝説”のライブのすべてが、ここに収められている。

「ヴァーモントの月」でお馴染みの名ギタリストが、シンプルなトリオ編成でお気に入りの名曲を取り上げたギター・ファン必聴のアルバム。

WPCR-29141 **国内初CD化** **[ROOST]**

ジョニー・スミス『ファイヴァリッツ』

①ヴァーモントの月 ②マイ・ファニー・ヴァレンタイン ③リトル・ガール・ブルー ④マイ・ウィン・アンド・オンリー・ラヴ ⑤ジミー・ヴァン・ヒューゼン・メドレー ⑥サテンドール ⑦ブルース・バック・ステージ ⑧エヴリシング・ハブ・アズ・トゥ・ミー ⑨バヴァーヌス ⑩ウィロー・ウィーヴ・フォー・ミー

ジョニー・スミス (g), ジョージ・ルマニ (b), マウジー・アレキサンダー (ds)

【録音】1959年5月20日 ニューヨーク

ベースとドラムスだけを従えたシンプルなトリオ編成で、ギタリストのジョニー・スミスが、お馴染みのスタンダード曲を中心に美しく弾きあげる。スタン・ゲッツと共演したヒトリーになった「ヴァーモントの月」をセルフ・カヴァー。ラヴェルの名曲「バヴァーヌス」をとりあげているのも、いかにスミスらしい。ジョニー・スミスのメロウなギター・サウンドの魅力をたっぷり味わうことができる一枚になっている。

MJQの知られざる代表作!

絶妙なグルーブ・エクスプレッションが光る。

WPCR-29143 **[ATLANTIC]**

モダン・ジャズ・カルテット『シェリフ』

①シェリフ ②イン・アクラウド ③バキアナス・ブラジレイラス ④ミーン・トゥ・ミー ⑤ナチュラル・アフェクション ⑥ドニーのテーマ ⑦カーニヴァル (黒いオルフェ)

ジョン・ルイス (p), ミルト・ジャクソン (vb), パーシー・ヒース (b), コニー・エイ (ds)

【録音】1963年5月16日、17日、12月20日

ユーモラスなアルバム・ジャケットも印象的な「シェリフ」では、63年の時点でのMJQの新しいレパートリーばかりが演奏されている。他のMJQのアルバムでも再演されることのない作品ばかりというのも貴重。当時、流行っていたボサ・ノヴァ・ナンバーをとりあげた(カーニヴァル(黒いオルフェ))、やブラジルの作曲家ヴィラ・ロボスの手になる(バキアナス・ブラジレイラス)など、美しい演奏が並んでいる。

豊かな声量と確かな歌唱力。エセル・ウォーターズ、ベニー・スミスの流れを汲む正統派の大型新人歌手の記念すべきファースト・アルバム。

WPCR-29145 **国内初CD化** **歌詞調** **[JUBILEE]**

デラ・リース『メランコリー・ベイビー』

①マイ・メランコリー・ベイビー ②フー・キャン・アイ・ター・ナウト・ウ ③ムード・イン・ディゴ ④アイ・ゲット・ア・ロング・ウィズ・アウト・ユー ⑤ヴェル・ヴェル ⑥コトージ・フォー・セル ⑦誰も奪えぬこの思い ⑧ワグ・フォー・マイ・ベイビー ⑨アイ・クッド・ハヴ・トールド・ユー・ソー ⑩ホエーン・ユアラヴァー・ハズ・ゴーン ⑪セイ・イット・イズ・ント・ゾー・ミー ⑫オール・アローン ⑬イツ・マン・ディ・エヴリ・デイ

デラ・リース (vo), シッド・ベス (arr. coord), オーケストラ

【録音】1957年 ニューヨーク (推定)

ゴスペルやブルースをルーツにちなみながらも、素直な好ましい歌唱を聴かせてくれるデラ・リースが57年、ジュビリーに吹き込んだこのピアノ・アルバムでは、ある、ソフトな出だしからダイナミックに盛り上げるタイトル曲。ちっぽけなレズビアン・ジャズ風をたたえながら、どの曲も真事に歌いこなしてゆく。このあとレズ、映画や多くのショウに出演してスターとして大成してゆく彼女の、もっとも初期の姿がとらえられている貴重な。

ファンクやソウルへの傾倒を示したワナー・移籍第1弾。キャッチーな「ウィグル・ワグル」をはじめ、人気曲「テルミー・ア・ベッドタイム・ストーリー」、V.S.O.P.で再演した名曲「ジェンカ」も収録。

WPCR-29140 **[WARNER BROS.]**

ハービー・ハンコック『ファット・アルバム・ロンドン』

①ウィグル・ワグル ②ファット・ママ ③テルミー・ア・ベッドタイム・ストーリー ④オー! オー! ヒア・ビー・カムズ ⑤ジェンカ ⑥ファット・アルバム・ロンドン ⑦リジュ・ラザー

ハービー・ハンコック (p, el-p, arr), ジョー・ヘンダーソン (ts, a-f), ジョー・フレット (ts, fj), ジョー・コールズ (tp, fh), ガーネット・ブラウン (tb), ビル・パット (g), パタ・メー・ウィリアムズ (b, el-b), ジェリー・ジョネット (el-b), トッド・ヘイス (ds), パーティ・テイディ (ds)

【録音】1969年10月4日、16日、11月26日、12月8日 ニュージャージー、ルイジアナ、ゲタダ・スタジオ

躍動的なファンク・ビート。マイルスの心をと離れて、自身の身体を編み出したハービー・ハンコックがワナー・ブラザーズと契約を結んで放った第1弾である。「ファット・アルバム」というテレビ番組のために書かれたテーマが中心になっているもの、全体としては70年代にハービーが目指した方向性が鮮やかに描き出されている。キャッチーな(ウィグル・ワグル)などのほか、名曲(テルミー・ア・ベッドタイム・ストーリー)も収録。

巨匠ミンガス、後期の大作。カーク・ジョージ・アダムス、ジョン・ファディスなど豪華ミュージシャンを従えた1974年、カーネギー・ホールにおける白熱のライブ!

WPCR-29142 **[ATLANTIC]**

チャールズ・ミンガス『ミンガム・アット・カーネギー・ホール』

①Cジャム・ブルース ②パーディード

チャールズ・ミンガス (b), ジョージ・アダムス (ts), ハミエット・ブルーエント (bs), ジョン・ファディス (tp), ジョン・ハンディ (as, ts), ローランド・カーク (ts, stretch), チャールズ・マクファラン (as), ドン・ビョーン・ダン (p), ダニー・リッチモンド (ds)

【録音】1974年1月19日 ニューヨーク「カーネギー・ホール」でのライブ

チャールズ・ミンガスが74年に開いた「カーネギー・ホール」でのコンサートから、熱っぽいジャム・セッションのステージを収めている。当時のレギュラー・クワセットを軸に、ローランド・カーク、チャールズ・マクファランら旧友たちを加えての、この上なくエキサイティングな演奏で、とくにカークのロング・ソロは狂巻マクファランのように熱く濃密なミンガス・ミュージックの真髄を耳にすることができる。

ベイシー楽団の専属歌手として人気の男性歌手が、リラックした雰囲気ジャズ・クラブでコンボをバックにご機嫌な歌を聴かせたライブ名盤。

WPCR-29144 **国内初CD化** **歌詞調** **[ROULETTE]**

ジョー・ウィリアムス『スウィング・ナイト・アット・バードランド』

①九月の雨 ②カム・バビー ③ファイヴ・オクロック・イン・ザ・モーニング ④セント・メリー・河に ⑤ジス・キャン・ビー・ラヴ ⑥今夜教えて ⑦ウェル・オール・ライト ⑧彼女に君のことを ⑨ジョーンズ嬢に会ったかい ⑩ウェル・オール・ウェル

ジョー・ウィリアムス (vo), ハリス・フイツ・エディン (tp), ジョー・フレステ (ts), サリー・チャールズ・トンプソン (p), ジョー・ベンジャミン (b), チャーリー・ハンツマン (ds), ビー・ウォー・マートク (MC)

【録音】1962年6月 ニューヨーク「バードランド」でのライブ

カウント・ベイシー楽団の専属シンガーとして名声を確立したあと、61年に独立したジョー・ウィリアムスが、ニューヨークのクラブ「バードランド」で繰りひろげた風格あふれるステージ。ライブならではのつらつらとした雰囲気とともに、本作の(ファイヴ・オクロック・イン・ザ・モーニング)をはじめ、スタンダード曲を含めてフルートに歌っている。ハリー・エディン、サリー・チャールズ以下のスウィング系サポートも素晴らしい。

「アサー・ゴッドフリー・ショウ」で一世を風靡した実力派の女性歌手が作曲家ハリー・ウォーレンの楽曲を取り上げたムーディなバラード・アルバム。

WPCR-29146 **歌詞調** **[JUBILEE]**

ルー・アン・シムズ『アット・セバレート・テーブルズ』

①セバレート・テーブルズ ②アイ・オンリー・ハヴ・アズ・フォー・ユー ③セイ・ア・ワイルド・ネヴァー・シー・ア・ナッシュ・ユー ④ザ・モア・アイ・シン・ユー ⑤ノー・ヴ・ノー・ナッシュ ⑥マイ・ドリーム・イズ・ユアーズ ⑦ユール・ネヴァー・ノウ ⑧アイ・ウィッシュ・アイ・ニュー ⑨アイヴ・ガット・トゥ・シン・グ・アット・ア・ソング ⑩ユア・ゲッティング・グッド・ヒア・ア・ハビット・ウィズ・ミー ⑪オール・ザッツ・イズ ⑫ジス・イズ・ア・ハビット

ルー・アン・シムズ (vo), デイヴ・テリ&ヒズ・オーケストラ, ストリングス&コーラス

【録音】1958年 ニューヨーク (推定)

50年代にいくつものシングル盤をリリースし、テレビなどにも出演していた気があったというルー・アン・シムズ。彼女が擁した唯一のアルバムで、ジュビリーに吹き込まれた「アット・セバレート・テーブルズ」である。ここでシムズは作曲家、ハリー・ウォーレンのナンバーばかりを選んで歌っている。タイトル曲は映画「旅路のため」に書かれた曲。語りかけるように歌ってゆくルー・アン・シムズの、温もりのある表情が心に染みわたる。